

# 「地域の人事部」でつながる 学生とまちの未来

問 広報情報課 内 3323



地域が一体となって企業の人材確保・育成・定着に取り組む「地域の人事部」\*。その活動に対する思いを、代表の吉田正さん(株式会社ファミリー社長)と参加者の片桐一揮さん(愛知学院大4年)に、市長が伺いました。

進行役は、可児市ふるさと応援番組「いきマイ+」<sup>プラス</sup>でおなじみの丹羽光代さんです。(文中、敬称略)

\*経済産業省が推進する「地域の人事部」の取り組みに基づく団体「中濃・東濃地域の人事部セントリンク」を指します。

## 地域の人事部について

丹羽 あけましておめでとうございました。今回、どうしてお2人にお越しいただいたのでしょうか。

吉田 地域の人事部についてだけではなく、吉田さんは地域の人事部の立ち上げへの思いや、実際に活動されての感想を伺いたく、お越しいただきました。片桐さんは参加した動機や率直な感想を伺いたいと思っています。

丹羽 地域で活躍している大人と学生が交流する場を提供する地域の人事部。どのような思いで立ち上げたのですか。

吉田 1つは、若い人たちに「働く」ということを身近に感じてほしいという点です。もう一つは、新卒採用の経験がない、あるいは教育方法が分からぬ中小企業の皆さんのお力になればと思い、立ち上げました。

丹羽 昨年から行われているガクチカ合宿や社長居酒屋などの取り組みは、どういったものなのですか。

吉田 ガクチカ合宿は就職活動の面接などでよく聞かれる「学生時代に力を入れたこと」、いわゆる「ガクチカ」をつくれるような、貴重な経験の場を提供したいと考え企画しました。この企画の背景には、可児市は小中高校生向けの取り組みは多いのですが、大学生

年齢を若年化させていきたい。高校生や大学生が本気で地域を考え、そのきっかけの年になればいいなと思っていました。また、ガクチカ合宿を通して同じ志を持つ学生同士のつながりもでき、充実した合宿になりました。

丹羽 地元企業に対する印象は変わりましたか。

片桐 すぐ変わりました。これまで知らなかつた企業の魅力を知り、もっと早く知つていれば「進学せず、可児市で就職していったかもしない」と考へるほどでした。

丹羽 片桐さんのお話を聞いて、活動を企画した立場としての思いはいかがですか。

吉田 片桐さんの今の話し方や自信に満ちた表情を見て、初めて会った時と比べて、本当に成長したと実感しています。

丹羽 最後に、これから可児市をどうなまちにしていきたいですか。

吉田 「地元で働く」という選択肢を若い人たちにもっと考えてほしいと思います。現状として、友人の多くは県外に就職していますが、可児市に魅力を感じてもらうために、学生だけではなく大人とも関わるイベントがもつとできればいいなと思います。

吉田 子どもたちにとって「働くことが楽しそう」と思つてもりえるような

つ曰は、地域の活性化イベントに興味があつたからです。元々、文化創造センター・アーツで行われている舞台などの運営にも関わっていて、何かもつと広くやってみたいと思っていました。吉田さんに声をかけていただき、これは実現できるチャンスだと感じて参加しました。

## 活動を通して

丹羽 参加してみてどうでしたか。

片桐 企業の皆さんと触れ合う中で「意外と身近なものが可児市でつくりれている」という発見がたくさんありました。また、ガクチカ合宿を通して同じ志を持つ学生同士のつながりもありました。

丹羽 地元企業に対する印象は変わりましたか。

片桐 すぐ変わりました。これまで知らなかつた企業の魅力を知り、もっと早く知つていれば「進学せず、可児市で就職していったかもしない」と考へるほどでした。

丹羽 片桐さんのお話を聞いて、活動を企画した立場としての思いはいかがですか。

吉田 片桐さんの今の話し方や自信に満ちた表情を見て、初めて会った時と比べて、本当に成長したと実感しています。

## 取り組みを進めていくために

丹羽 片桐さんのお話を聞いて、活動を企画した立場としての思いはいかがですか。

吉田 まずはこの活動をたくさんの方や大人に知つていただき、巻き込んで大きくしていきたいです。そして、地域のことについて本気で考へる人の



片桐一揮さん

年齢を若年化させていきたい。高校生や大学生が本気で地域を考え、そのきっかけの年になればいいなと思っています。親や先生以外の大人と関わることが若者の成長につながると考へて、この考へに間違いはなかつたと確信が持てました。

丹羽 お話を伺つてみていかがですか。

市長 民間企業の皆さんも、地域活動をしようと思つてくださり、学生もそれに応え、積極的な活動をしてくれています。活動をもっと広げていただけます。

丹羽 最後に、これから可児市をどうなまちにしていきたいですか。

片桐 「地元で働く」という選択肢を若い人たちにもっと考えてほしいと思います。現状として、友人の多くは県外に就職していますが、可児市に魅力を感じてもらうために、学生だけではなく大人とも関わるイベントがもつとできればいいなと思います。

吉田 子どもたちにとって「働くことが樂しそう」と思つてもりえるような

まちにしていきたいです。そのためにはまず、大人である私たちがキラキラと輝くような、貴重な経験の場を提供したいと考え企画しました。この企画の背景には、可児市は小中高校生向けの取り組みは多いのですが、大学生

活動に参加したきっかけや理由を教えてください。

丹羽 大きく3つあります。1つ目は、就職活動で、アピールできる経験を増やしたかったからです。2つ目は、地元への関心です。可児市に20年以上住んでいますが、地元の企業のことを意外と知らないなと感じていました。具体的な事業内容が分からぬ会社を知るきっかけになればと思いました。



吉田正さん

いた方が、強く響くのではないかと思いました。今後、そのような機会をつくることができればいいなと思いました。また、市として地域の人事部を応援することで、活動のさらなる広がりが期待できるのであれば、一緒にやってみたいと思いました。

対談の様子は、テレビやYouTubeでもご覧いただけます。

○ケーブルテレビ可児

可児市ふるさと応援番組  
**いきマイ**  
INUI My Town Plus

詳細は  
25ページ

○可児市公式YouTube  
「かにチャンネル」

1月9日(金)  
に配信予定